

林道事業再評価調書

事業名	林道開設事業（森林基幹道）	路線名	ながやすかいかわせん 長安海川線																	
事業主体	徳島県	関係市町村	那賀町(旧上那賀町)																	
事業概要	【目的】 本路線は、那賀町大戸(旧上那賀町)の町道を起点とし、那賀町丈ヶ谷地区を経て海川谷川の国道193号を終点とする連絡林道である。この林道の開設により森林の適正な管理や保全、効率的な森林施業を推進するとともに、宮浜地区、平谷地区、海川地区をつなぐ国道193号の災害時や緊急時の迂回路としての重要な役割を担う路線として期待されている。																			
	【内容】 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">利用区域面積</td> <td style="width: 30%;">2,106ha</td> <td style="width: 40%;">[人工林面積:1,926ha (91%)]</td> </tr> <tr> <td>受益戸数(森林所有者数)</td> <td>320戸</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幅員</td> <td>3.5～4.0m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計画延長</td> <td>30,404m</td> <td>(うち平成30年度末の供用予定延長 19,402m)</td> </tr> <tr> <td>総事業費</td> <td>4,982,000千円</td> <td>(うち平成30年度末の実施予定事業費 3,270,471千円)</td> </tr> <tr> <td>事業予定期間</td> <td>昭和62年度～平成45年度</td> <td>(47年間)</td> </tr> </table>			利用区域面積	2,106ha	[人工林面積:1,926ha (91%)]	受益戸数(森林所有者数)	320戸		幅員	3.5～4.0m		計画延長	30,404m	(うち平成30年度末の供用予定延長 19,402m)	総事業費	4,982,000千円	(うち平成30年度末の実施予定事業費 3,270,471千円)	事業予定期間	昭和62年度～平成45年度
利用区域面積	2,106ha	[人工林面積:1,926ha (91%)]																		
受益戸数(森林所有者数)	320戸																			
幅員	3.5～4.0m																			
計画延長	30,404m	(うち平成30年度末の供用予定延長 19,402m)																		
総事業費	4,982,000千円	(うち平成30年度末の実施予定事業費 3,270,471千円)																		
事業予定期間	昭和62年度～平成45年度	(47年間)																		
評価	【事業の進捗状況】 起点側長安工区と中間側東谷工区の両方向から進めており、長安工区側12,717m、東谷工区側4,477mが平成15年度に開通し、部分供用している。また、平成16年度からは丈ヶ谷工区側からも着手し、平成30年度末現在、丈ヶ谷工区側2,208mの供用を予定しており、進捗率は64%となっている。 <div style="text-align: right;">[進捗率:63.8%]</div>																			
	【関連事業の整備状況】 これまで5,011haの森林整備が実施されるなど、路線の周辺では林道の延伸により森林整備や木材生産活動が活発に行われている。																			
項目	【社会経済情勢の変化】 本県は県土の75%を森林が占め、人工林率も62%と高い。森林資源は、人工林を中心に、の40年間で約3倍にまで増加しており、特にスギ人工林は、今後5年間で樹齢50年生以上が50%を超え、成熟期を迎えており、当該路線に係る森林資源については、人工林面積の92.5%がスギであり、うち45.9%は51年～80年生と、搬出間伐の適期を迎えている。 県内には、製材業や家具製造業のほか、「合板工場」や「MDF工場」、「大型製材工場」など、多様な加工体制を有しており、県産木材の安定供給体制の整備が重要であるが、加えて、国産材需要は増加傾向にあり、川上と川下が一体となった取り組みを総合的に進めることが必要である。 県では平成23年度から、県産材の生産量と消費量の倍増を目的とした「次世代林業プロジェクト」を推進し、木材生産量や林業従事者の増加など成果を上げている。平成27年7月からは林業の一步先の未来を切り開く「新次元林業プロジェクト」を展開、主伐から造林、保育までの「森林サイクル」を取り戻し、雇用の創出とともに、森林資源の循環利用による森林・林業を核とした「地方創生」の実現を目指している。 目標を達成するうえで、主伐にも対応した「新林業生産システム」の導入と併せて、路網整備の推進が必要不可欠となっており、こうした背景のもと関係町村内の林業事業体で高性能林業機械を使用し、積極的に施業に取り組んでいる。																			
	【計画上重要な部分の変更の必要性の有無】 無し																			
目	【事業効果の発現状況】 供用開始した区域を利用し、昭和62年度から平成29年度までに、延べ5,011.17haの間伐をはじめとした森林整備が実施されている。今後、供用区間の増加に伴い、約100haの森林整備が計画されている。 <div style="text-align: center;">[費用対効果] 1.85 (国の採択基準は1.0以上)</div>																			
	【受益者・関係機関の意向】 本路線は、旧上那賀町中央部の森林資源が充実した地域を通過する計画で、路網の未整備区域では、間伐等の森林整備が遅れた森林があり、森林所有者からの要望が強い。 また、災害時には地域の主要道である国道193号と国道195号の迂回路としての役割や、地域の交通ネットワーク形成に果たす役割も期待され、那賀町、森林所有者等は早期完成を望んでいる。																			
【事業の実施方針】 継続して事業を実施する。																				